

# 地方創生の キーファクターに なるものは

去る11月4日、日本地域創生学会の木村俊昭会長より命を受け、宮崎県日南市で行われた「地域創生フォーラム」に参加して参りました。日南市崎田基平市長（38歳）とのパネルディスカッションです。前々から、日南市は「できない理由ではなくできる方法を考える」市政づくりを実現しているところから、その内容を肌で感じたいと思っていたところ、渡りに船のお声かけに急ぎよ駆け付けた次第。そこで得られたものは大変大きいものでした。

## 「小さなまち」の「大きな挑戦」

日南市と聞いて私たちが想像するのは、プロ野球球団のキャンプ地ということくらいでしょうか。人口約5万4千人、宮崎空港から車で1時間半の道のりです。市街地というと日南の先、油津駅が最寄り駅です。駅に降り立った時、正直、とんでもない所

に来てしまったなという印象でした。ところがです。道すがらに見つけた油津商店街は、よくある地方の元気のない商店街と思いきや、何故か若い人たちが溢れていました。そして、小さな子供を連れたママさん達が集まっている光景に目を見張りました。夕方の時間に差し掛かっていたので、ホテルに着く前に一杯飲みたいと商店街を見ていると「本日の宿泊のお客様ですか」と若い店員さんに声を掛けられ入ったのがゲストハウス (fami・ABURATSU・Sports Bar & HOSTEL)。なんでもこんなところにゲストハウスがあるのかと思いつながらその真相を知るのに時間はかかりませんでした。

## 「ワカモノ」「ヨソモノ」「バカモノ」の存在

崎田市長は九州大学工学部を卒業後、宮崎県庁を経て、平成25年に日南市長に就任されました。この



Human Delight 株式会社 代表取締役社長

野田 万起子 のだ まきこ

静岡県出身。東京国際大学経済学部国際学科卒業。米国オレゴン州TIUアメリカ校卒業。1993年株式会社ベンチャー・リンク入社。2010年同社取締役就任。11年同グループのMBOにより独立。インクグロウ株式会社の代表取締役社長を務めたのち、15年より現職。地方自治体の地方創生プロモーションの支援に従事する一方、経済産業省「女性起業家等支援ネットワーク構築事業」の静岡県主宰としても活躍している。

4年間で明らかに「まち」が変わってきていることが実感できます。

崎田市長が取り組まれてきたのは、これからの市を支えていく20代から30代の人財育成はもとより、まちを支えてこられた、そしてこれから子供や孫の代に「まちの良さを伝える教育者や伝道師」でもある60代を対象とした「創客創人大学」の開催、未来を支える高校生の教育と、「ヒト」を主軸にした取り組みとも言えます。私はこの方針に多いに共感しています。企業経営も同じですが、いくら地域の資源が豊富でも、代わりが無いのが「ヒト」であり、まちを支える人。これからのまちを支える人財づくりは最優先の取り組みであると考えます。

一方で、日南市は、様々な大きな取り組みを実現しています。地方創生には何が必要かということをよく議論するのですが、私は、真に「ワカモノ」「ヨソモノ」「バカモノ」の存在が必要だと思っています。まずは「ワカモノ」、若い人たちが自分のまちを愛し活動することで凄いやりが生まれます。若者は活動量が違いますのでその生産性は倍々の成果を生み出します。日南市は、地元の若者を育てるだけでなく、県外、市外から市政のビジネスプランを公募し、採用案は積極的に取り入れています。その結果、大学生がまちづくりに参加しています（前述した、ゲストハウスがその一例で、店長は大分出身、京都に在住する大学生です）。

そして「ヨソモノ」、地元の立ち位置で見ても、当たり前前に感じる事が多々あり自分たちではその価値が見いだせないジレンマに陥りますが、外から見ればダイアの原石が沢山あることに興味を持ちます。平成25年に公募した「中心市街地活性化プロジェクト」では市外、県外からプロジェクトマ

ネージャーを採用し見事に油津商店街を蘇らせました。元々、商店街にあった店舗を蘇らせるのと同じ時に、空き店舗となった場所に県外から企業を誘致し、商店街の中に子育て支援センター「ことごと」を併設し、働き方改革を実践しています。このような発想は、ヨソモノだから出来る視点が大きく働いていると思います。

そして、崎田市長に「市長もバカモノですね」と大変失礼なことを申し上げました。バカになるというのはどういうことか、人からどう言われても、既存の概念を取っ払い、信念に基づいて行動することだと思っただけです。今の市政、地方創生に必要なのはそういうことだと思っただけです。今までのやり方では先に進むことはできません。その壁を切り崩す、傍から見たら「バカモノ」の存在が必要なのではないでしょうか。「できない理由ではなくできる方法を考える」という方針を掲げた崎田市長はそういう存在なのだと思います。

つくづく思います。リーダーとはどんな人なのかと。強い信念に基づいたリーダーが行ったリーダーが行動を起こし、それに賛同した仲間が現れる、そしてその影響の輪が広がっていく、そこには新しい光が宿るのだと思います。地方創生とはそういうことなのではないでしょうか。

先

